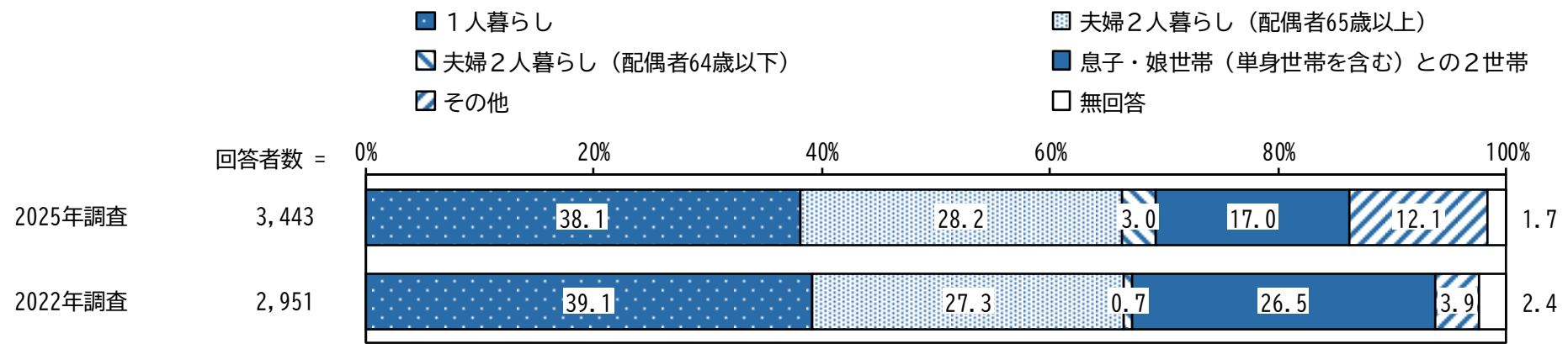


在宅高齢者実態調査 調査結果

2025年度
神戸市

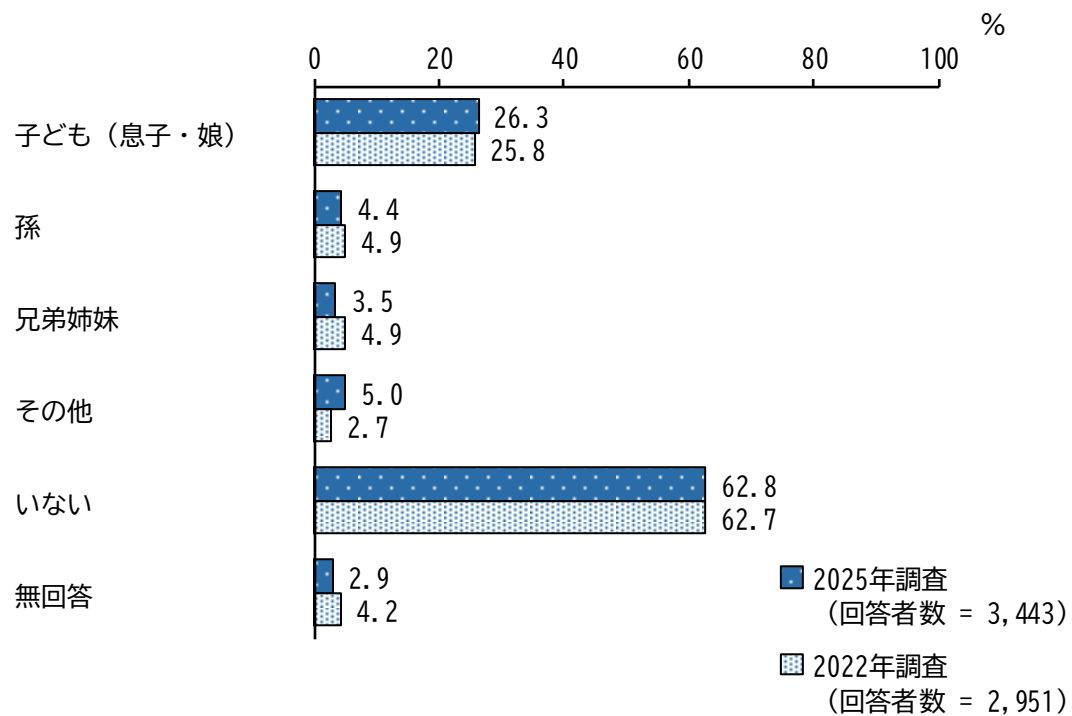
家族構成

家族構成は、「1人暮らし」が38.1%で最も多くなっている。前回調査と比較すると、「息子・娘世帯（単身世帯を含む）との2世帯」が9.5ポイント低くなっている。



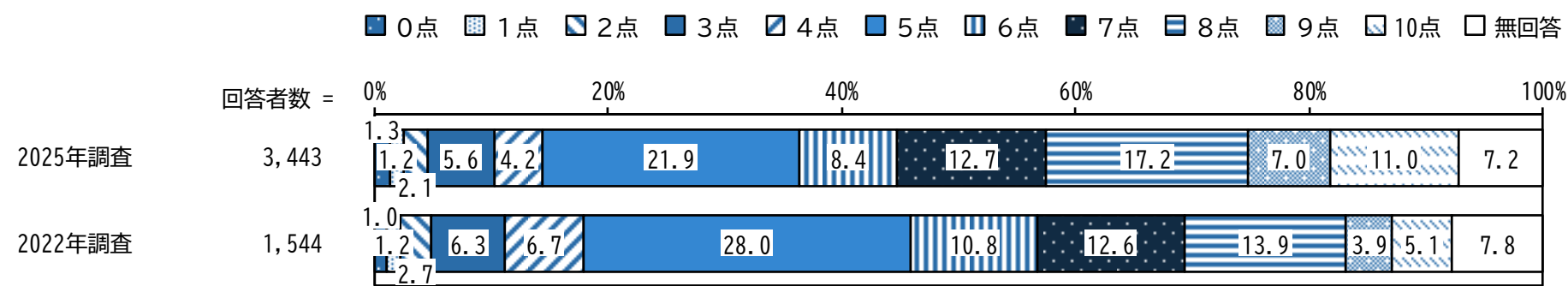
近くに住む親族の有無

歩いて 15 分以内くらいに住む親族の有無については、「いない」が 62.8%で最も多くなっている。



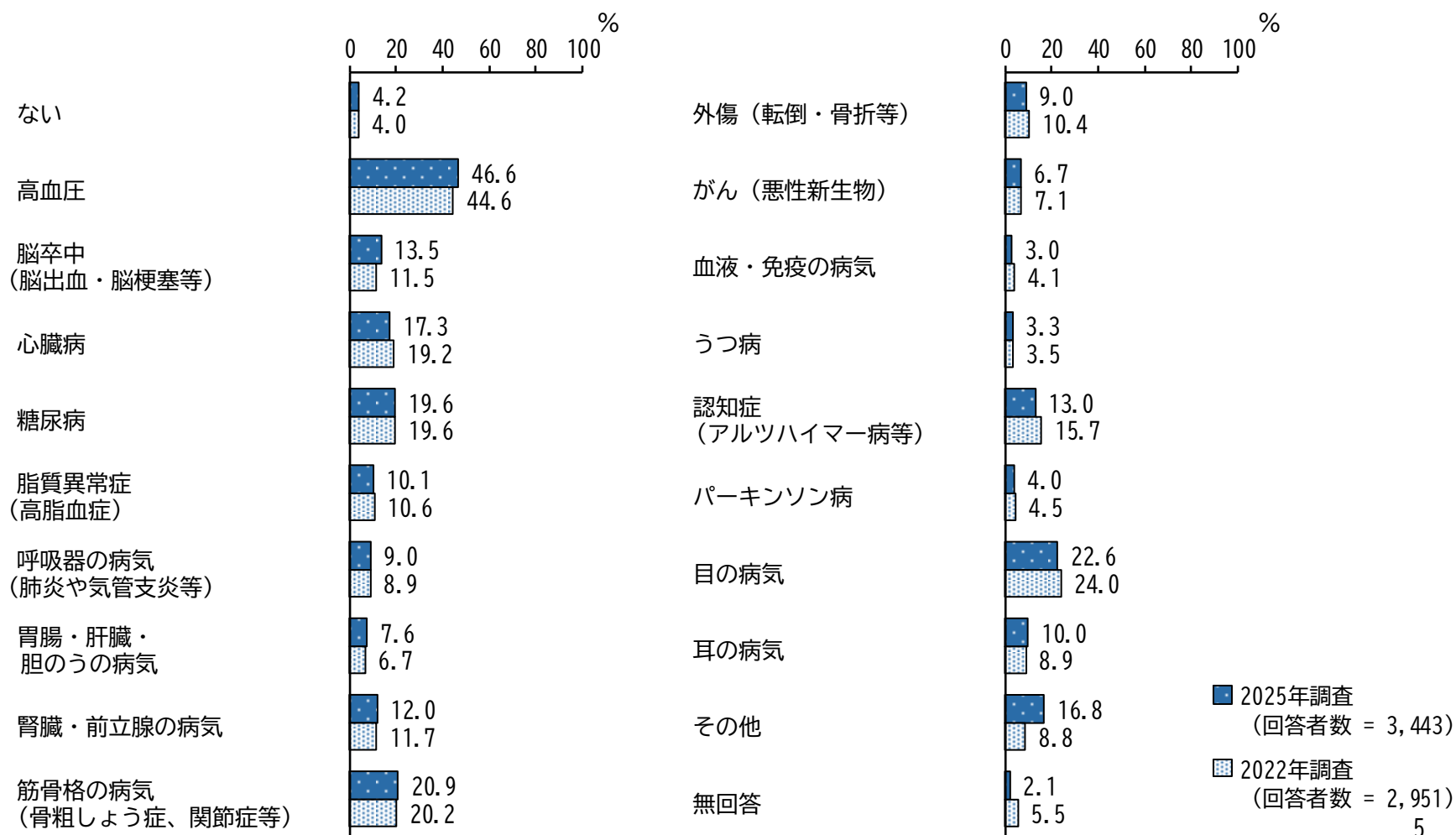
幸福度

幸福度については、「5点」が21.9%で最も多くなっている。前回調査と比較すると、「10点」が5.9ポイント高く、「5点」が6.1ポイント低くなっている。



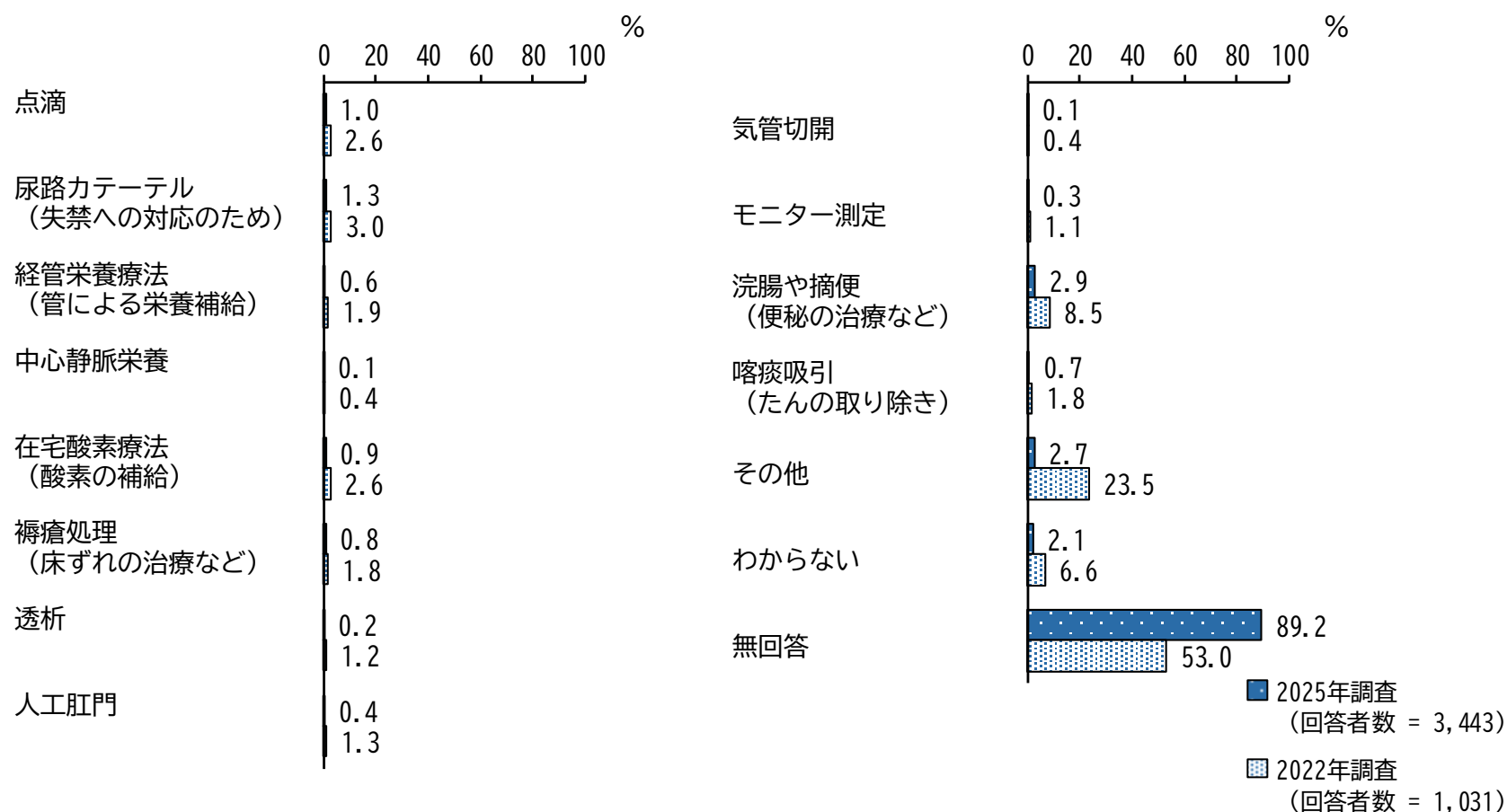
現在治療中または後遺症のある病気

現在治療中または後遺症のある病気は、「高血圧」が46.6%で最も多くなっている。



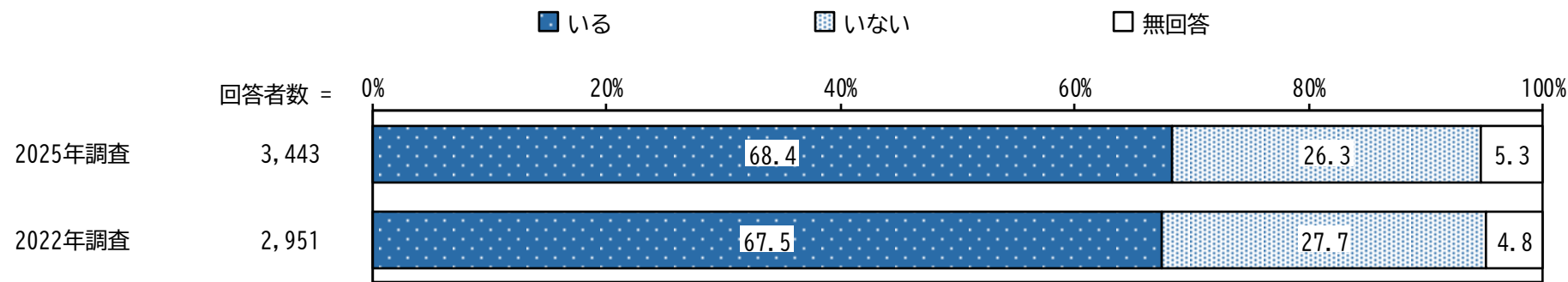
自宅で受けている医療の内容

自宅で受けている医療の内容は、「浣腸や摘便（便秘の治療など）」が2.9%で最も多くなっている。前回調査と比較すると、「浣腸や摘便（便秘の治療など）」が5.6ポイント低くなっている。



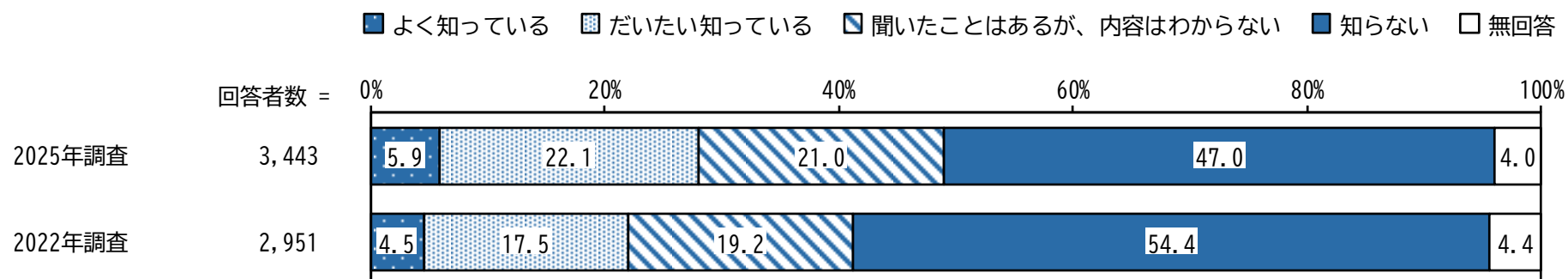
かかりつけ歯科医師の有無

かかりつけ歯科医師の有無は、「いる」が 68.4%となっている。



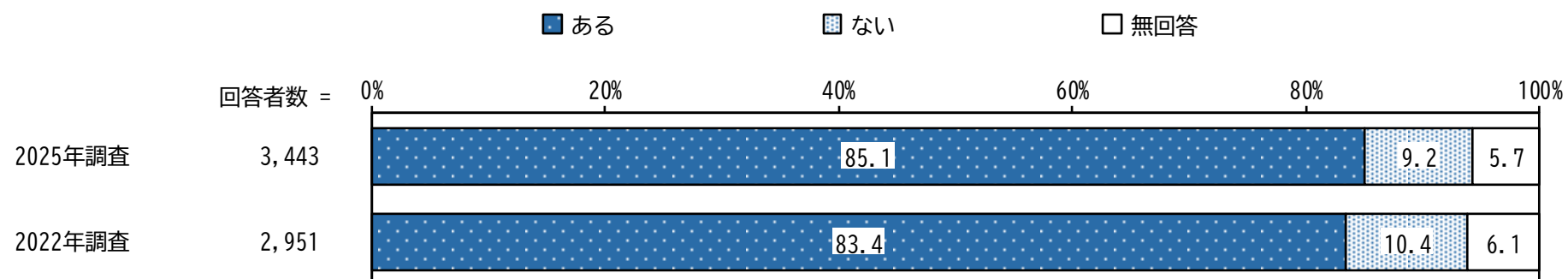
オーラルフレイルの認知度

オーラルフレイルの認知度は、「知らない」が47.0%で最も多くなっている。前回調査と比較すると、「だいたい知っている」が4.6ポイント高く、「知らない」が7.4ポイント低くなっている。



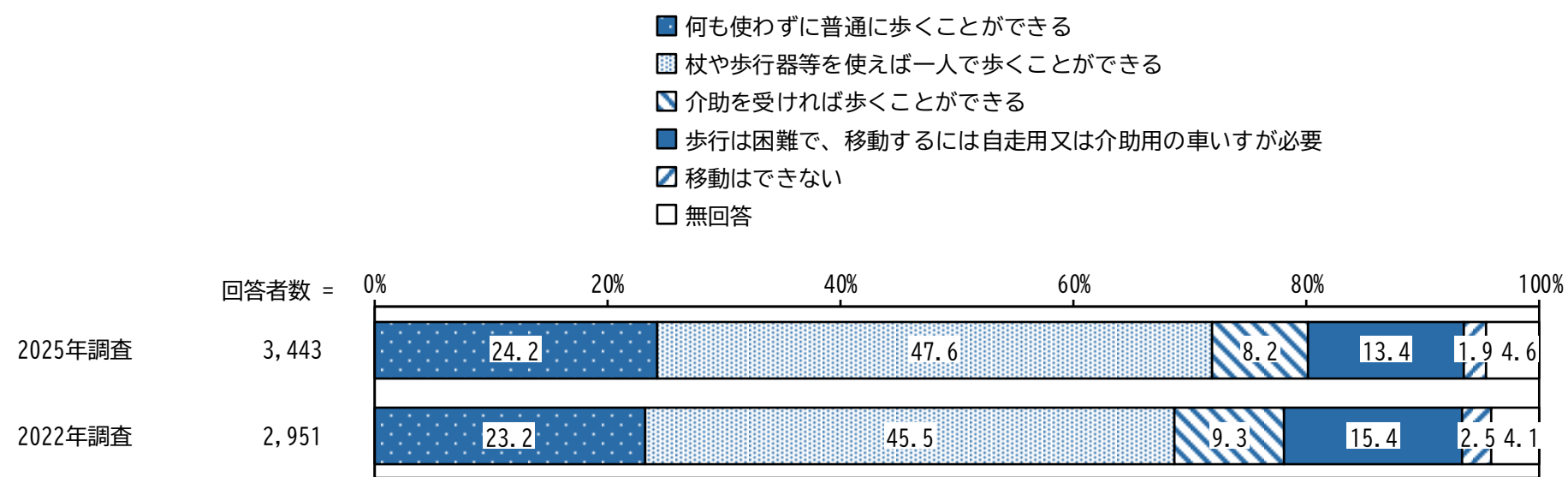
かかりつけ薬局の有無

かかりつけ薬局があるかは、「ある」が 85.1%となっている。



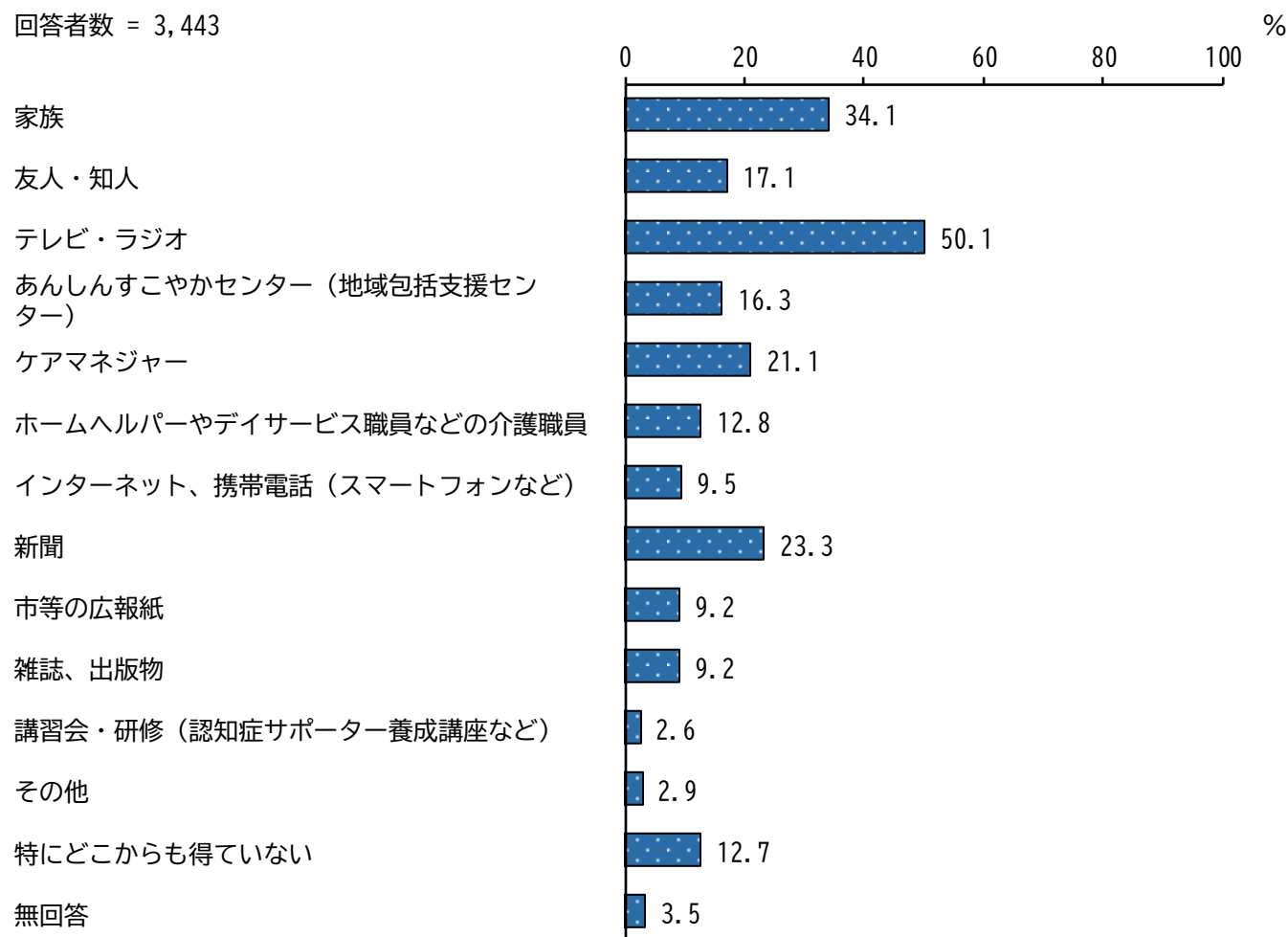
現在の身体状況

現在の身体状況は、「杖や歩行器等を使えば一人で歩くことができる」が 47.6%で最も多くなっている。



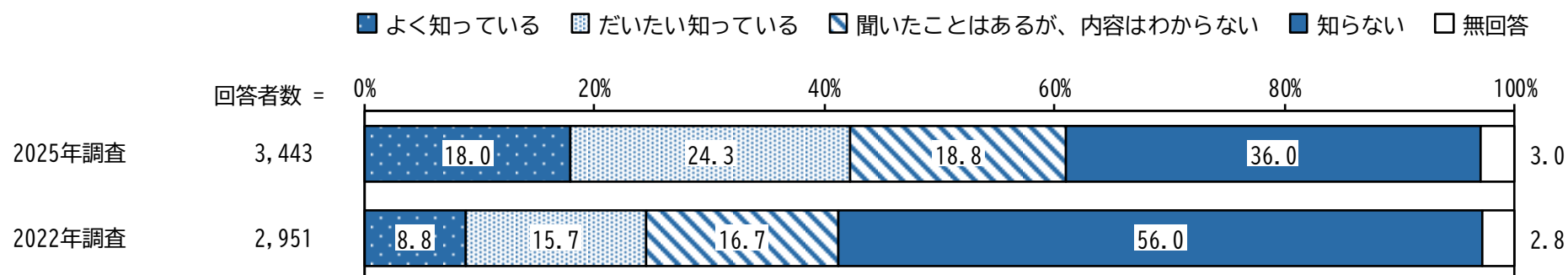
認知症に関する情報の入手元

認知症に関する情報の入手元は、「テレビ・ラジオ」の割合が 50.1%と最も高く、次いで「家族」の割合が 34.1%、「新聞」の割合が 23.3%となっている。



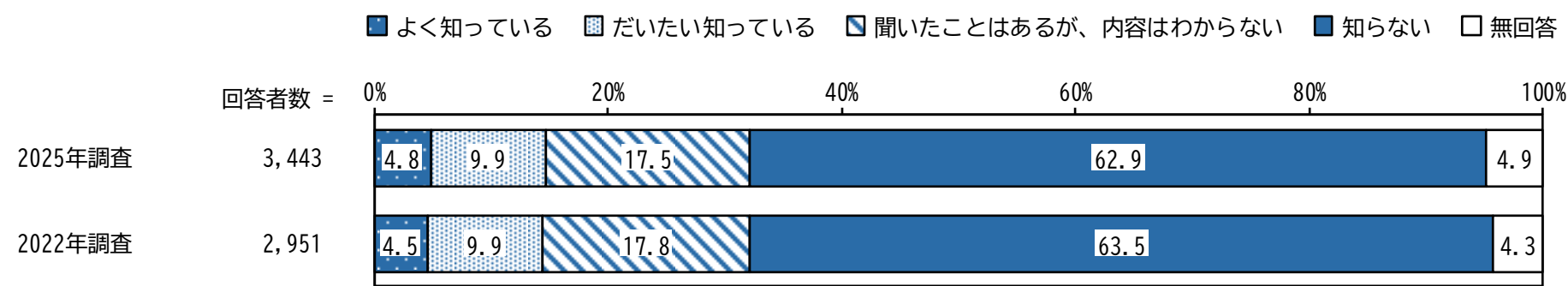
認知症の診断助成制度の認知度

認知症の診断助成制度を知っているかは、「知らない」が 36.0%で最も多くなっている。前回調査と比較すると、「よく知っている」が 9.2 ポイント高く、「知らない」が 20.0 ポイント低くなっている。



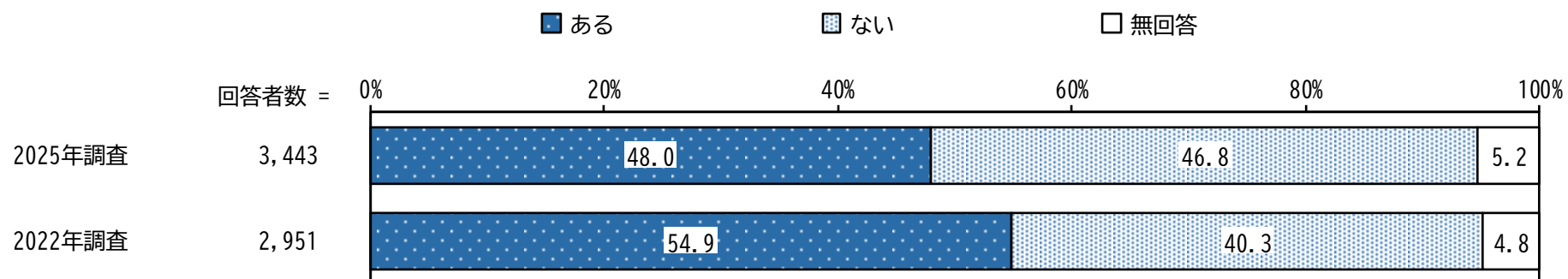
事故救済制度の認知度

事故救済制度を知っているかは、「知らない」が 62.9%で最も多くなっている。



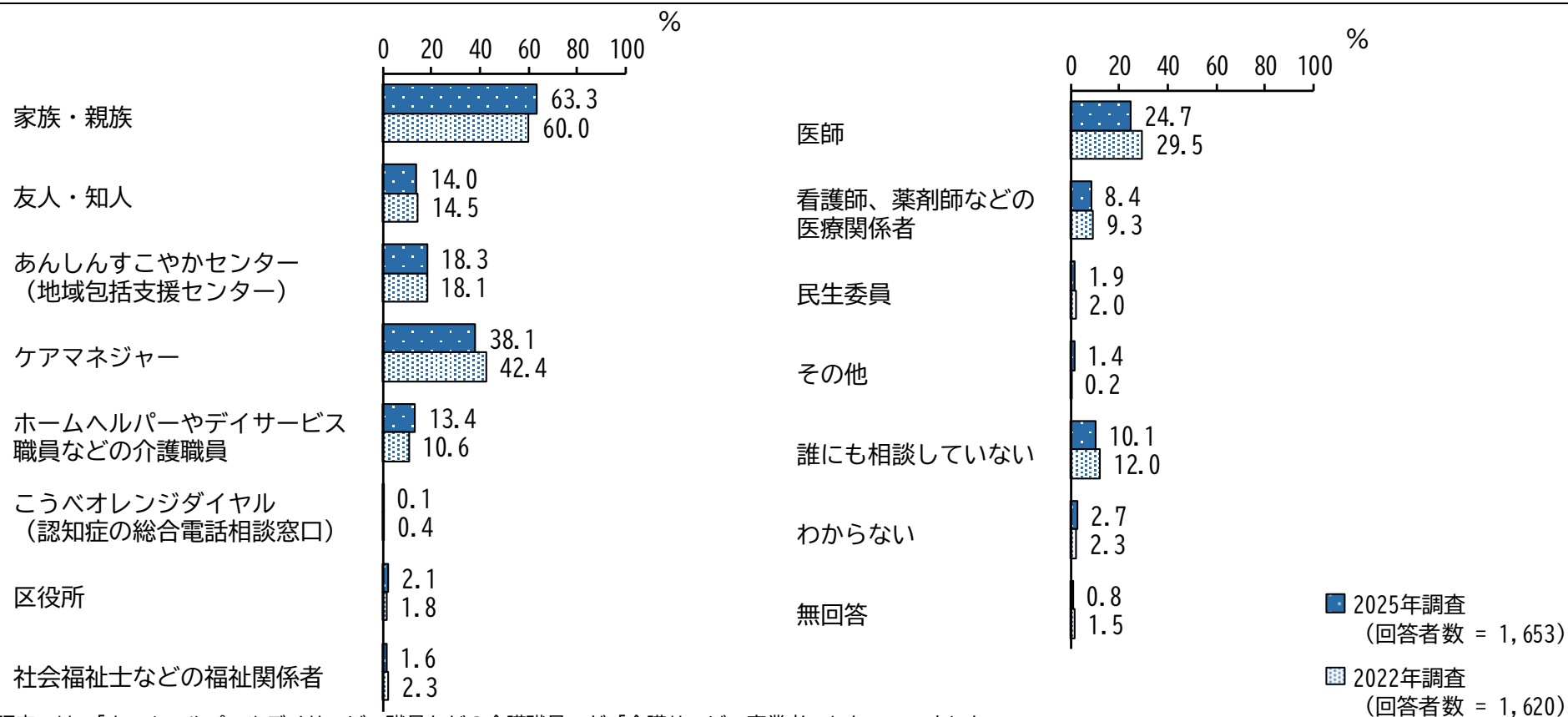
認知症に関する心配ごとの有無

認知症に関して心配ごとがあるかは、「ある」が48.0%となっている。前回調査と比較すると、「ない」が6.5ポイント高く、「ある」が6.9ポイント低くなっている。



認知症に関する心配ごとの相談先

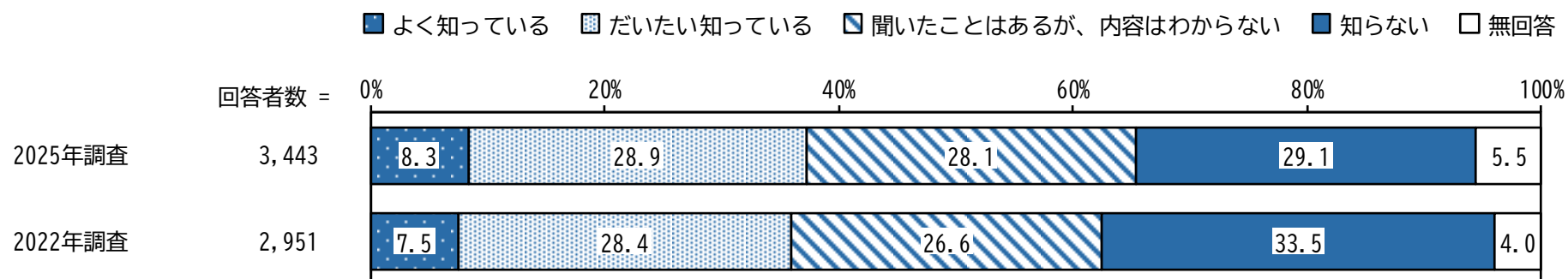
認知症に関して心配ごとがあると回答した方に心配ごとの相談先についてたずねたところ、「家族・親族」が63.3%で最も多くなっている。前回調査と比較すると、「家族・親族」が3.3ポイント高く、「医師」が4.8ポイント低くなっている。



※2022年調査では、「ホームヘルパーやデイサービス職員などの介護職員」が「介護サービス事業者」となっていました。

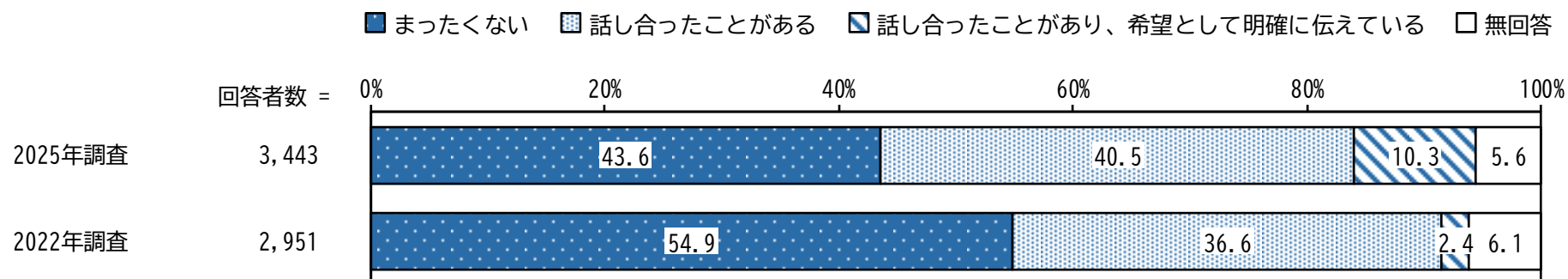
成年後見制度の認知度

成年後見制度を知っているかは、「知らない」が29.1%で最も多くなっている。前回調査と比較すると、「知らない」が4.4ポイント低くなっている。



ACP(人生会議)の話し合い状況

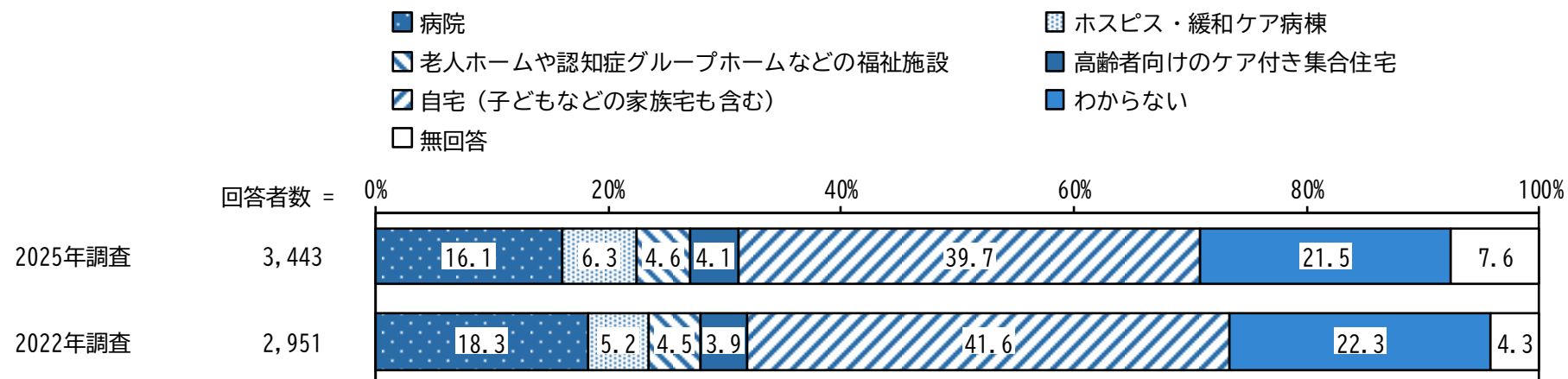
ACP(人生会議)について誰かと話し合いをしているかは、「まったくない」が43.6%で最も多くなっている。前回調査と比較すると、「話し合ったことがあり、希望として明確に伝えている」が7.9ポイント高く、「まったくない」が11.3ポイント低くなっている。



※2022年調査では、「話し合ったことがあり、希望として明確に伝えている」が「話し合い、その結果を紙などに記載した」となっていました。

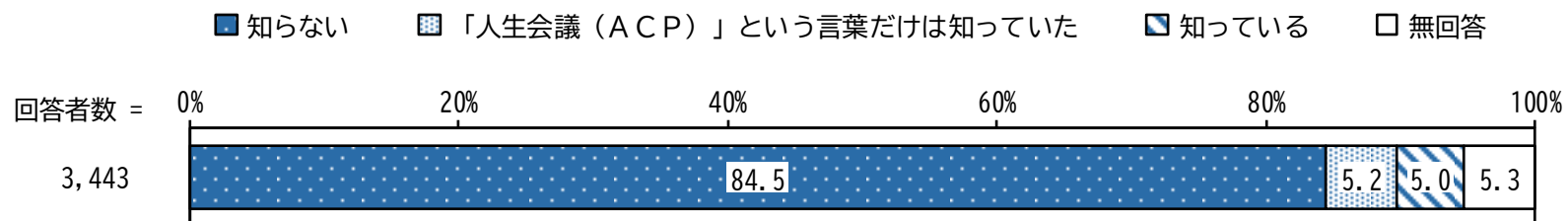
自分が希望する終の住処

自分が希望する終の住処は、「自宅（子どもなどの家族宅も含む）」の割合が 39.7%と最も高く、次いで「病院」の割合が 16.1%となっている。

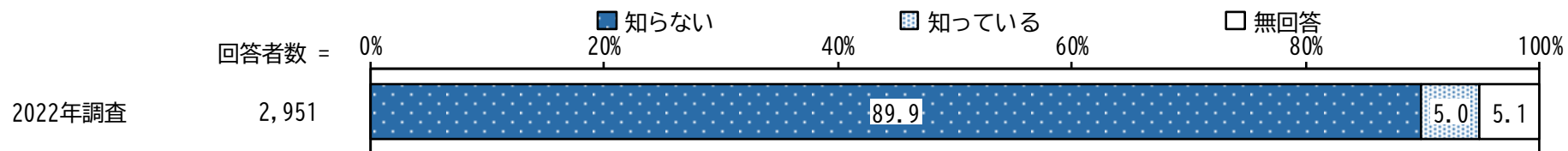


ACP(人生会議)の認知度

ACPについて知っているかは、「知らない」の割合が84.5%、「人生会議（ACP）」という言葉だけは知っていた」の割合が5.2%、「知っている」の割合が5.0%となっている。

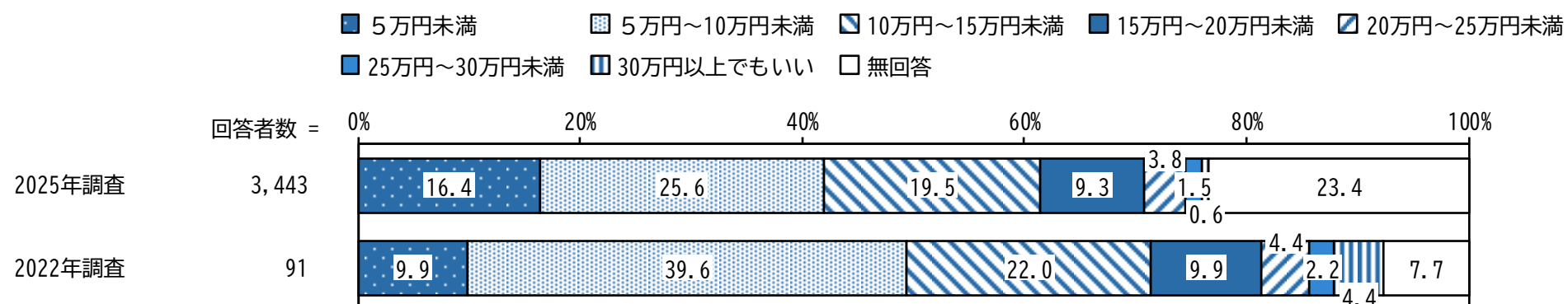


【参 考】



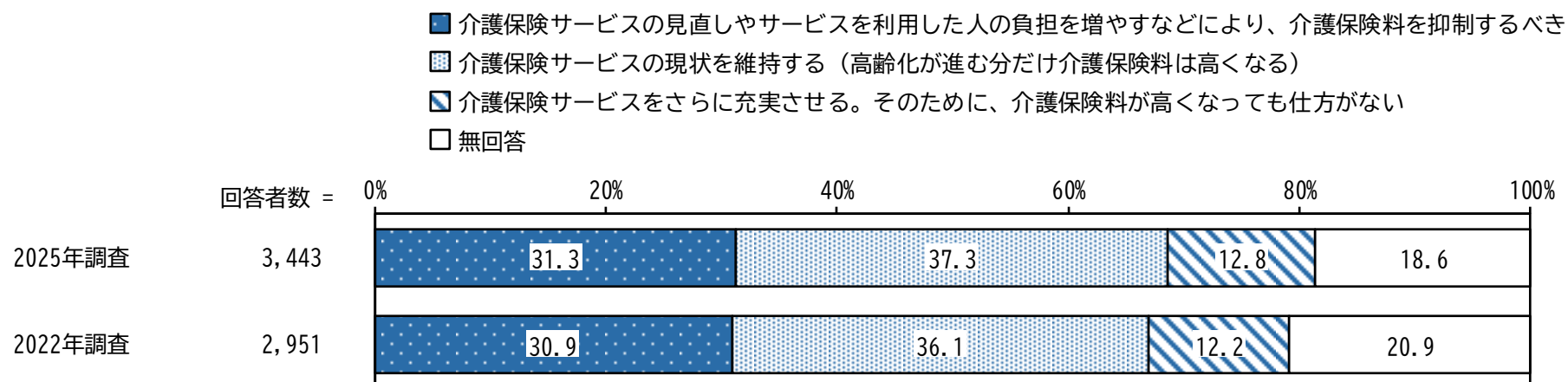
特別養護老人ホームに毎月負担できる支払額

特別養護老人ホームに毎月負担できる支払額は、「5万円～10万円未満」が25.6%で最も多くなっている。前回調査と比較すると、「5万円未満」が6.5ポイント高く、「5万円～10万円未満」が14.0ポイント低くなっている。



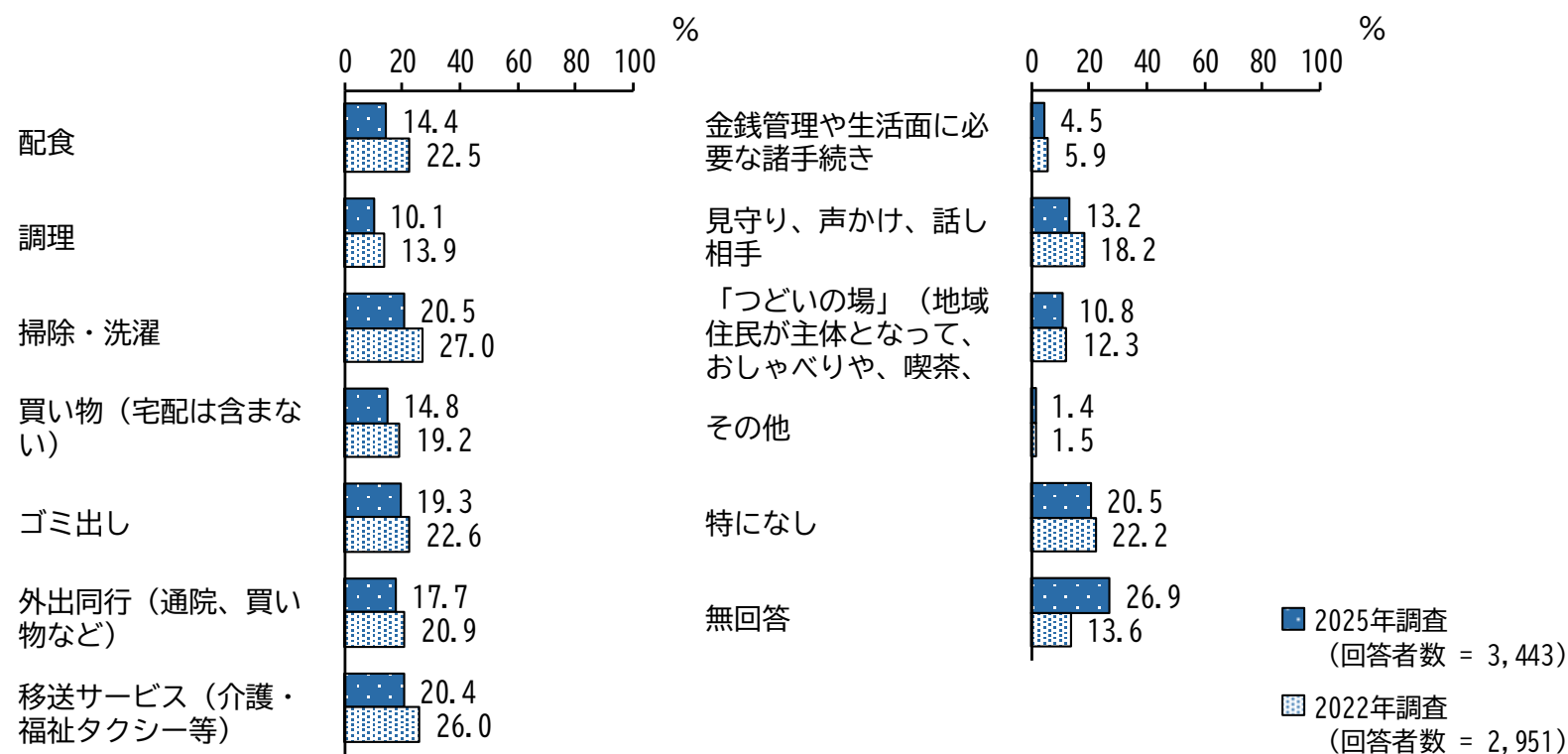
今後の介護保険料についての考え

今後の介護保険料についての考えは、「介護保険サービスの現状を維持する（高齢化が進む分だけ介護保険料は高くなる）」が37.3%で最も多くなっている。



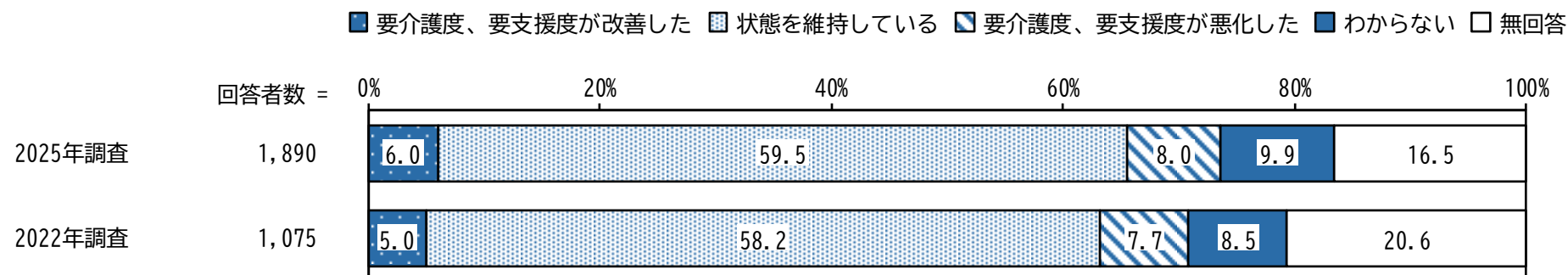
今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスは、「掃除・洗濯」が20.5%で最も多くなっている。前回調査と比較すると、「配食」が8.1ポイント低くなっている。



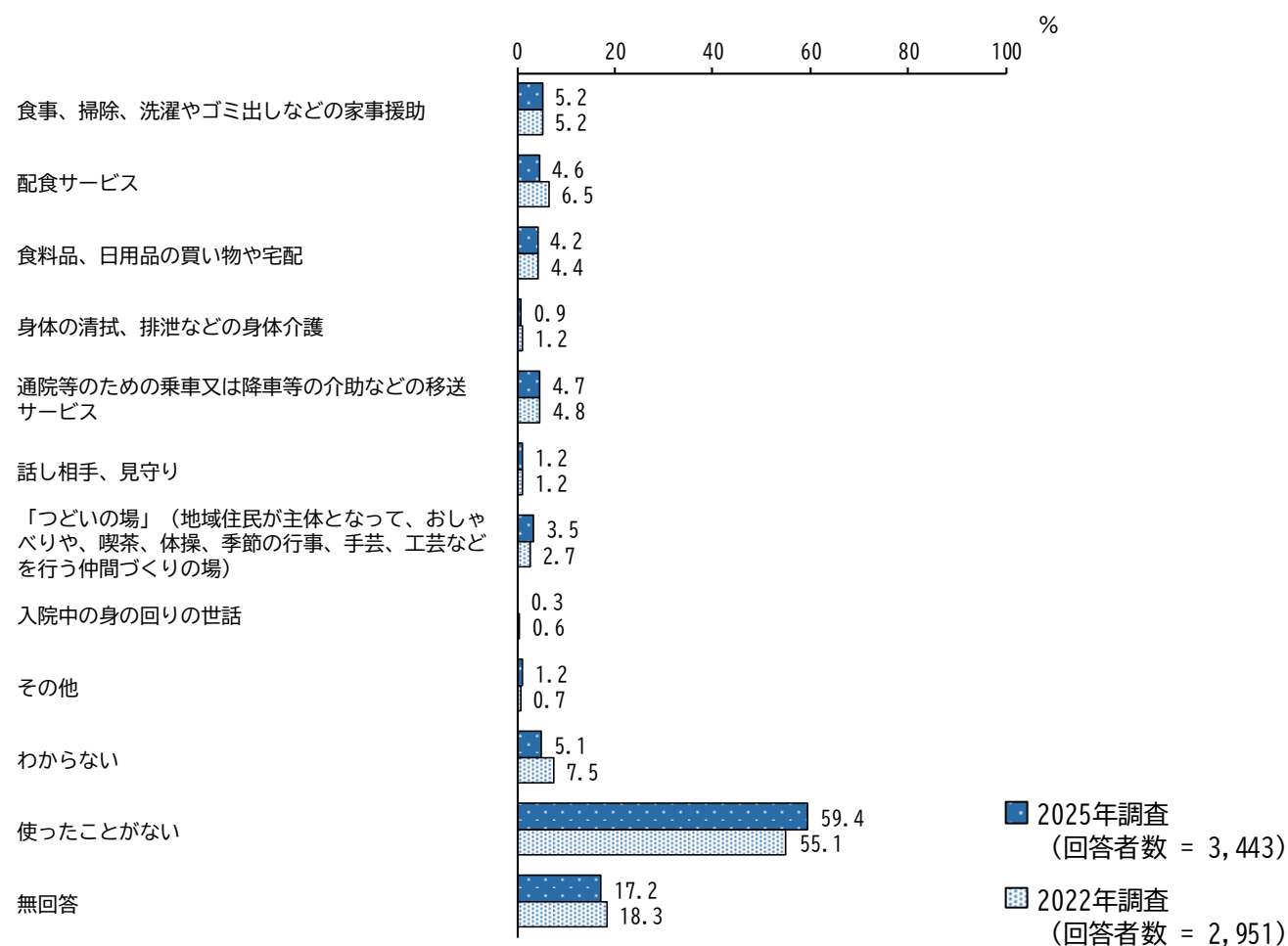
この1年間での状態の変化

1年以上利用している方の、この1年間での状態については、「状態を維持している」が59.5%で最も多くなっている。



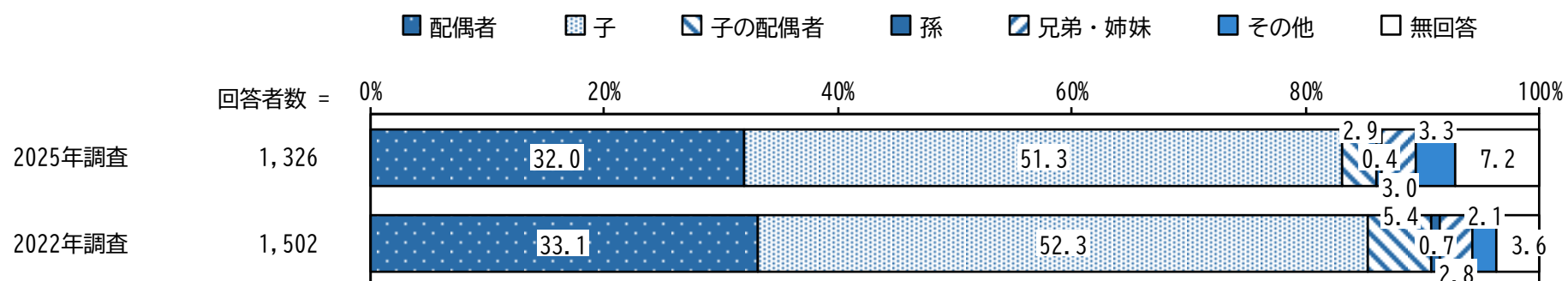
介護保険サービス以外で利用しているサービス

介護保険サービス以外で利用しているサービスは、「使ったことがない」が 59.4%で最も多くなっている。前回調査と比較すると、「使ったことがない」が 4.3 ポイント高くなっている。



主な介護者の続柄

主な介護者は、「子」が51.3%で最も多くなっている。

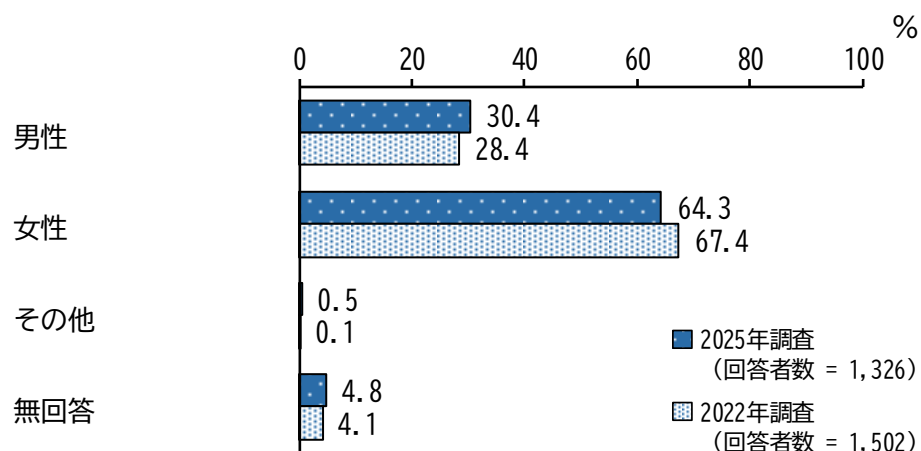


主な介護者の性別と年齢

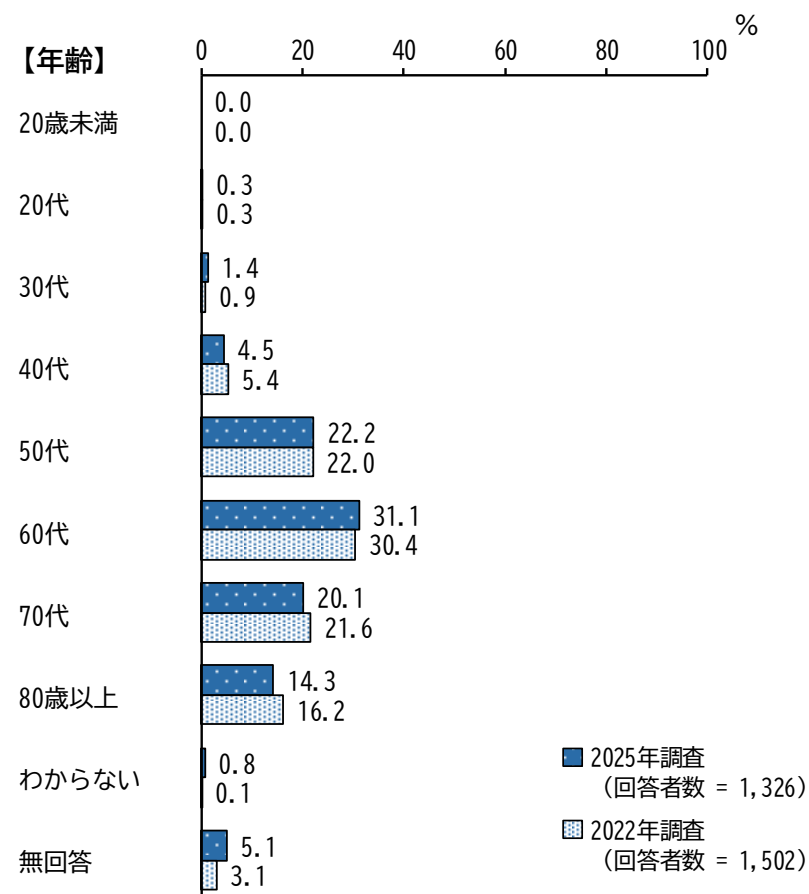
介護者の性別は、「女性」が64.3%となっている。前回調査と比較すると、「女性」が3.1ポイント低くなっている。

介護者の年齢は、「60代」が31.1%で最も多くなっている。

【性別】

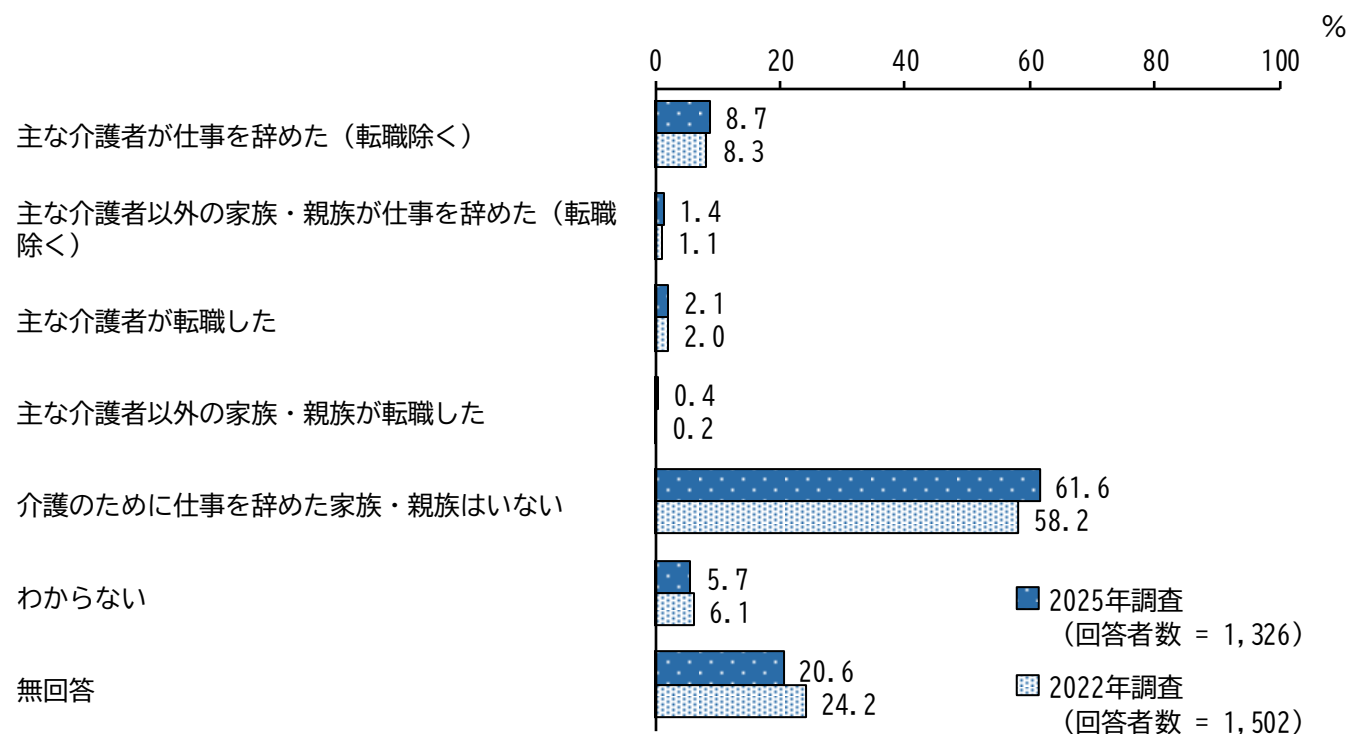


【年齢】



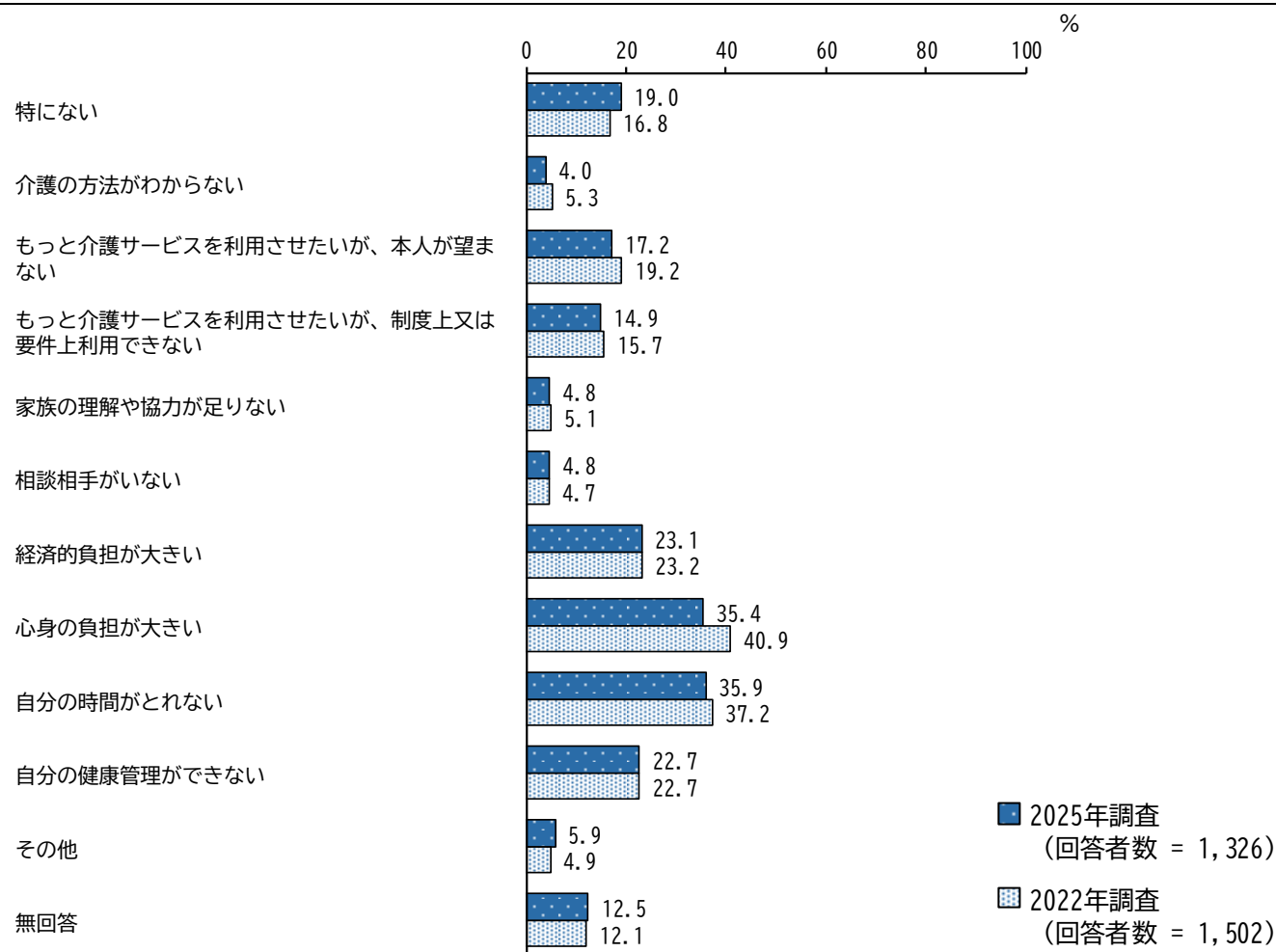
介護を理由に仕事を辞めた家族・親族の有無

介護を理由に仕事を辞めた家族・親族がいるかについては、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が 61.6%で最も多くなっている。前回調査と比較すると、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が 3.4 ポイント高くなっている。



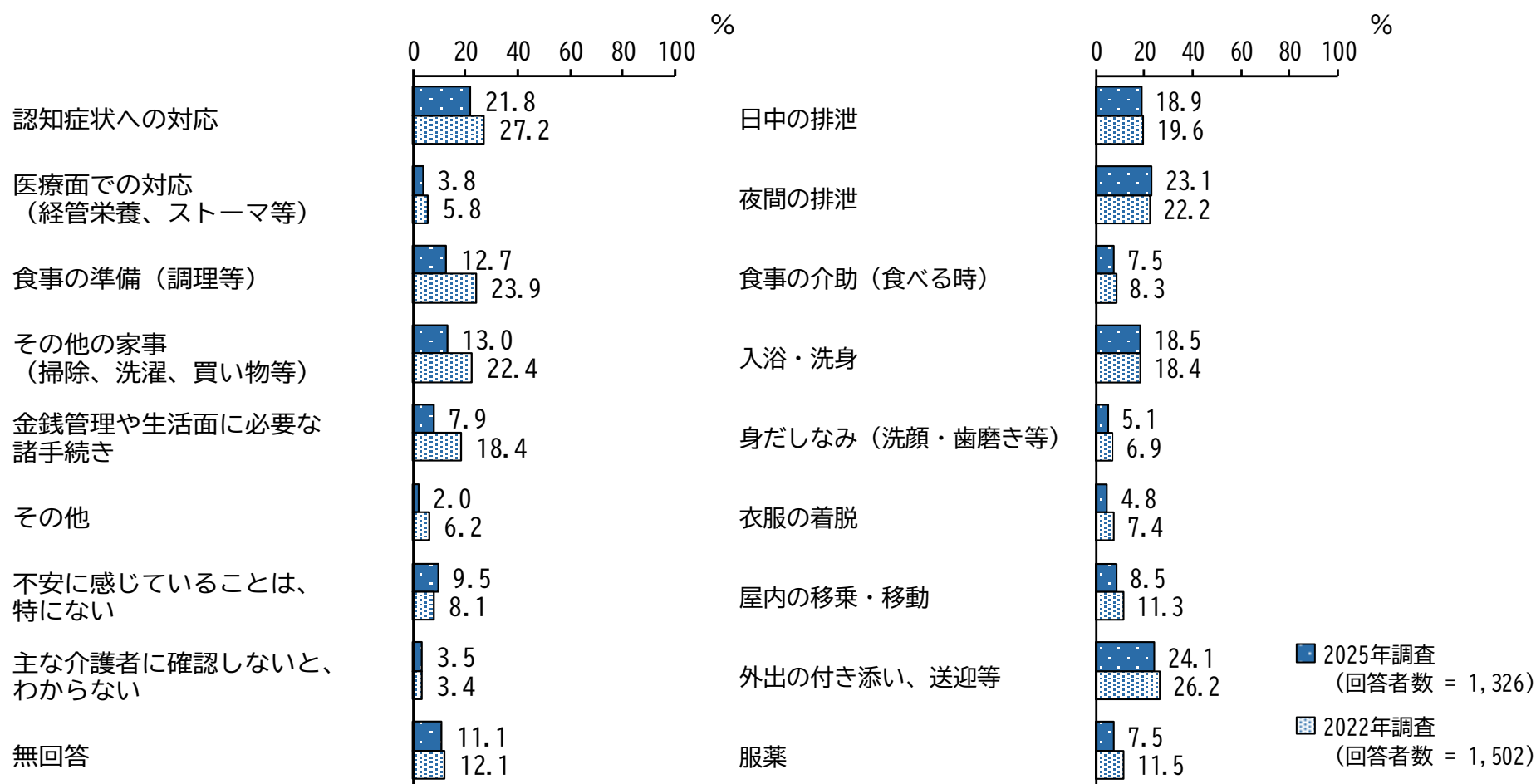
介護者が介護を行う上で困っていること

介護者が介護を行う上で困っていることは、「自分の時間がとれない」が 35.9%で最も多くなっている。前回調査と比較すると、「心身の負担が大きい」が 5.5 ポイント低くなっている。



現在の生活を継続する際、介護者が不安に感じる介護内容

現在の生活を継続するにあたり、介護者が不安に感じる介護内容は、「外出の付き添い、送迎等」が24.1%で最も多くなっている。前回調査と比較すると、「食事の準備（調理等）」が11.2ポイント低くなっている。



介護者の介護負担を減らすために必要な施策

介護者の介護負担を減らすために必要な施策は、「必要なときにショートステイが利用できるようにする」が47.4%で最も多くなっている。前回調査と比較すると、「24時間対応の在宅サービス（訪問介護、訪問看護、デイサービスなど）を充実する」が6.5ポイント低くなっている。

